

第 11 回 中札内村景観まちづくり委員会 会議録

日 時 平成 27 年 2 月 24 日（火） 19:00～20:30
場 所 改善センター 1 階会議室
出席委員 金澤和彦、澤田美鈴、片山祐二、北島俊之、小原早苗
欠席委員 望月真理、下埜智加
アドバイザー 斉藤浩二
事務局 総務課長 阿部雅行、総務課主査 氏家佑介、総務課主事 毛利晋輔

議 事

開 会 19:00

（会長） 時間になりましたので会議を始めます。今回の委員会ではなかさつないルールについて手を入れていこうと思っています。また、役場の方から今後の委員会の方向性についての報告があると伺っていますので、阿部課長からお願いいたします。

（阿部課長） 10 月 6 日の委員会では美瑛町・東川町の視察もふまえ、委員会としては景観行政団体を目指すということになりました。そのことについては、みなさんが村の景観に対して誇りを持っていること、もう一步踏み込まなければ取組が進まないと感じているということ強く感じました。しかし、マスコミで報道のあった後に、一部から反対意見が出ています。おそらく、景観行政団体になるということが、看板の規制や撤去というイメージに繋がってしまったためかと思われます。ですから、今後はそういったイメージを持たれている方に丁寧な説明をしていかなければならないと感じたところです。

このような状況もありまして、村としては景観行政団体を目指す前に、日本で最も美しい村連合に加入し、現在進めているなかさつないルールの合意形成に向けて取組んでいくことが必要ではないかという判断になりました。もちろん、景観行政団体をあきらめたということではなく、段階を踏んだ後に最終的な目標として動いていきたいと考えています。

（会長） ただいま阿部課長からお話いただいたことについて、委員のみなさんからご意見を伺いたいと思います。

（委員） 課長が仰ったとおりに進めていいと思います。

（委員） 景観行政団体に入るのは早いということでしょうか？

(阿部課長) どうしても景観行政団体＝看板撤去というイメージが独り歩きしてしまっているように思います。ただ、なにかアクションはしていかなければならないので、まずは美しい村連合に加入して、景観に対する取組姿勢を見せるということは必要かなと考えています。

－ 氏家主査 美しい村連合について説明 －

(会長) 美しい村連合に入ることのメリットは？

(斉藤アドバイザー) 他の加入地域と情報交換できますし、去年は赤レンガ前で物産展を行っていたはずですが。一番大きいのは村が景観の取組をしているというPRに繋がることではないでしょうか。

(会長) 住民や事業者の方にとってもわかりやすいアクションかもしれないですね。イメージや認知度といったところで展開していくのは悪くない気がします。

(委員) 第一歩としていいと思います。美しい村連合に入ることによってマスメディアを通じて広がっていく部分、注目される部分があるのではないのでしょうか。

(委員) 私もみなさんと同じような意見です。景観の取組は漠然としているものですが、加入によってイメージしやすくなると思います。

(会長) それでは、委員会としてもまずは美しい村連合に加入し、その後に景観行政団体を目指すという方向性で進めていきたいと思います。

続いて、本日の協議事項なかさつないルールについてですが、以前の委員会が出た意見について修正した案を作ってきていただいていますので、斉藤さんから説明をお願いします。

(斉藤アドバイザー) まず、表紙の文言を「ルールをつくりませんか」に変更しています。修正前に比べて押付けている印象がなくなり、一緒につくるものとイメージしてもらえそうです。また、横文字は理解しづらいとの指摘があったので、別の言葉で言い換えています（アグリツーリズム→農村観光）。次のページですが、建設の際の事前届け出制を新たに載せています。ここについては、後ほどみなさんから意見をもらいたいと思います。農村エリアの部分では、看板やノボリを完全に減らすという表現から、徐々に減らすという言葉に変更しています。また、最後のページの相関図に、住民が気持ちよくなれるという効果を追加しています。

(会長) 表紙が言い切りではなく呼び掛けになっているのはいいですね。できあがったものを押し付ける感じがなくなる。届け出をして問題がある場合は協議ということになりますか？

(斉藤アドバイザー) 例えば、ニセコでは住民説明会で近隣の同意を得なければならないということになっています。やり方は色々ありますが、建てる方に景観との調和を意識してもらうきっかけになるのではないかと思います。

(会長) 届け出という行為によって、一旦景観を考えてもらうということに繋がりますよね。

(委員) 基準は事業者と話し合って決めていく必要がありますよね。

(会長) 看板やノボリを徐々に減らすと変更されたとのことですが、減らすという言葉は受け取る側にマイナスなイメージを与えてしまう気がしますね。景観に調和したものにしていく、というような表現の方がいいかもしれません。

(斉藤アドバイザー) 再度修正したものを委員会の成果として提出したいと思います。今年度の活動は、もう少し色々な方との対話の場面があるとよかったですね。説明会としてやってしまうと固くなってしまうので、懇談会や意見交換会などとしてやっていくことは今後必要なことでしょう。

(会長) 関心を持ってもらうことが大切ですよね。このパンフレットをネタに話をしていけばいいのではないのでしょうか。

(氏家主査) パンフレットについては広報折込みや商工会を通じて事業者に配付してもらう予定です。ただ、4月号は折込みの量が多くなるので埋もれてしまう可能性があります。できれば5月号で周知していきたいと考えています。

(会長) 折込みはいいのですが、意外過ぎてわからないということはないのでしょうか。パッと見ただけでは何の目的かがわかりにくい。折込みは別のバージョンを作ってもいいかもしれませんね。

(委員) 何のための取組かがわかるキャッチコピーのようなものがあればいいと思います。

(氏家主査) あとは文字も大きくしてみてもどうでしょうか。

(会長) まずは手に取って理解してもらうことが大切で、広報バージョンの場合できるだけシンプルにするのがいいかもしれません。

(斉藤アドバイザー) ただいま意見のあった点について修正したものを作ります。

(阿部課長) 3月納品を目標に進めていこうと思います。

(斉藤アドバイザー) ずっと残したい風景ですが、応募結果はどうなっているのでしょうか。

(毛利主事) 6名からの応募、32枚の作品が集まりました。

(斉藤アドバイザー) なんらかの形で披露する必要がありますよね。作品数は少ないですが、この取組は数を重ねることが一番重要だと思います。次回は少し応募の仕方を工夫するなどしてみてもどうでしょうか。

(委員) 技術的なものを競うコンテストではなく、景観の魅力に気付くことが目的ですよね。続けることで意識啓発にもなります。

(阿部課長) 今回の応募分につきましては、ホームページあるいは広報で結果をお知らせしたいと思います。

(会長) 最終的には集まったものを地図に落とし込んでみるのも面白いかもしれません。それでは、今年度最後の委員会ですが、これで終了したいと思います。みなさん長い間お疲れ様でした。

閉 会 20 : 30